

脱原発・公開勉強会を開催

世界の潮流は自然エネルギー

協会は福島原発事故を受け県民・国民の健康を守る立場から「脱原発」の方針を掲げた。7月2日、9日と2週連続で開催した公開勉強会の様子を報告する。今後、協会では、勉強会の参加者から寄せられた意見や感想を取り入れ、脱原発の取り組みを進めていく。



講演する飯田哲也氏

「原子力村」の掃蕩を。飯田氏は、福島原発事故の対応は犯罪的であり「原子力村」にかかわる人心を二掃すべきとし、メルトタウンの評価を指摘した。

「原発の選択と世界の動き」を。また、原発と自然エネルギーについて、現在の原子力損害賠償は二〇〇億円しかなく、事故を全く想定してこない。

「普及の鍵は自然エネルギーの地域産業化」を。小規模分散型の自然エネルギーは、産業を地方に生み出し、地域の雇用を生み出す。例えば、秋田県では年間一〇〇億円が光熱費。これを自然エネルギーで賄えば、秋田県から出て行った一〇〇〇億円が地域に残り、余った電力を売ることもできる。

「参加者の意見、感想」を。世界の動きが紹介されて良かった。地域に利益が還元されているという点がとても良い。(医)

飯田哲也氏講演

自然エネルギー市場の広がり 地域に利益、小規模分散発電

エネルギー政策第一人者の飯田哲也・環境エネルギー政策研究所所長を招聘し、「計画停電」なしで夏は乗り切れる「脱原発は本当に可能か」というテーマで講演を開催し、四四人が参加した。飯田氏は、今後のエネルギー予想を踏まえ、自然エネルギーへ転換していく道筋を示し、世界市場の広がり、自然エネルギー中心の産業発展の重要性を強調した。講演会の詳しい内容は来月以降に掲載する予定である。

発電所の選択と世界の動き

普及の鍵は自然エネルギーの地域産業化

ミツバチの羽音と地球の回転 上映会



壇上で挨拶する中央・辻研究部員、左・大場理事長、右・青山副理事長

「ミツバチの羽音と地球の回転」の上映会を開催した。映画は、震災前に作られたもので、祝島の原発反対運動とスウェーデンでエネルギーの自立に取り組む人々を描いた、未来のエネルギーを巡る物語である。七月九日、大宮ソニックシティ国際会議室にて

二度上映し、会員やスタッフ、市民など合計で二五〇人が参加した。一回目のあいさつは山崎常任理事が壇上に立ち、「春の停電が診療活動に大きな支障を及ぼしたが、そのことが原発について考えるきっかけとなった」と、今回の上映会開催の経緯を紹介した。会場アンケートには多くの協力があり、長年、原発反対運動に参加している人から原発に初めて疑問を持った人まで幅広い層の参加があった。

「参加者からの感想や意見」を。祝島の人の人間としての(本当は当たり前)の暮らした。活動に頭が下がりました。その暮らした根付いた闘いが強さの根源というところがとても伝わってきました。(三郷市) ・スウェーデンの実践は持続可能なエネルギー供給

第22回「核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 埼玉」

この世界に核兵器も原発も入らない 彩の国から核兵器禁止条約の制定を

開催日 11月5日(土)、6日(日)

会場 さいたま市民会館うらわ
さいたま市浦和区仲町2-10-22
※ JR 浦和駅西口より徒歩7分

11/5 12:30~18:00
○記念シンポジウム
「放射能被ばくと医の倫理」
シンポジスト 肥田舜太郎氏(被爆医師)

田中熙巳氏(被団協事務局長)
大久保賢一氏(日本反核法学会事務局長)
○核兵器廃絶に向けた国会議員シンポジウム
国会議員(各党から参加予定)
コーディネーター 梅林宏道氏(ピースデポ特別顧問)

11/6 09:15~13:00
○第1分科会「被爆者医療について」
○第2分科会「福島原発事故問題について」
○第3分科会「内部被ばくについて」